

医療被ばくに関する説明書【核医学検査】

患者番号

患者氏名

様

この検査はごく微量のラジオアイソトープという放射線を出す検査薬を投与し、検査用の大きなカメラで検査薬の集まり具合を測定し、シンチグラムと呼ばれる画像にします。

体内に分布した検査薬の位置や量によって、他の放射線検査ではわからない身体の機能を画像として見ることができます。

放射線を出す検査薬を用いるため、放射線被ばくによる以下の影響が生じる可能性があります。

【放射線の人体への影響】

放射線被ばくによって人体に起こる影響には確率的影響と組織反応（確定的影響）があります。

確率的影響：被ばくする放射線量が増えるほどその発生確率が高くなる影響で、発がんや遺伝的影響があります。影響が現れる期間は数年から数十年後です。

1回の検査で受ける放射線量（**100mSv 以下**：低線量被ばく）では、その関係は明らかにされていません。

組織反応（確定的影響）：しきい値（しきい線量）を超える放射線量を被ばくすると一定の割合で起こる反応で、代表的な反応に皮膚紅斑や脱毛、骨髄減少などがあります。

1回の検査で受ける放射線量（**100mSv 以下**：低線量被ばく）では、確定的影響が発生することはほとんどないと考えられています。

【予想される被ばく線量】

アイソトープ検査での放射線被ばく線量は、撮影方法や検査薬により異なりますが、1回の検査で0.5～15mSv程度（放射線医学総合研究所ホームページより）となります。

Sv：シーベルト（実効線量：局所の被ばくを全身の被ばくに換算した場合の線量単位）

【当院での被ばく低減の取り組み】

当院では不必要な放射線被ばくを抑えるために以下の取り組みを行っています。

- ・必要以上の範囲は撮影しない
- ・頻回の繰り返し検査は避ける
- ・装置の被ばく低減機能を積極的に使用する

放射線機器については、定期的に点検を行い、放射線量を測定し適正かどうかのチェックを行うなどの被ばく管理を実施しています。